

## 平成 28 年 建設技術研究開発評価委員会 議事要旨

日時：平成 28 年 8 月 1 日（月）15:00～16:30

場所：中央合同庁舎 4 号館 1 階 全省庁共用 1 2 3 会議室

出席者：（五十音順、敬称省略）

加藤信介、清水英範、田中哮義、二羽淳一郎、平田京子、道奥康治、本橋健司、野城智也、安田進、山口栄輝

議事：

- ・総合技術開発プロジェクトについて
- ・ヒアリング審査「ICTの全面的な活用による建設生産性向上に関する研究」
- ・ヒアリング審査「新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発」

配布資料：

- 資料 1 総合技術開発プロジェクトについて
- 資料 2 ICTの全面的な活用による建設生産性向上に関する研究
- 資料 3 新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発

議事要旨：

平成 29 年度の新規要求課題候補（2 件）について事前評価を実施するため、外部有識者会議を開催した。委員の主な意見は下記の通り。

「ICTの全面的な活用による建設生産性向上に関する研究」

- ・ICTは日進月歩で進展しており、基準を整備することにより、民間の技術開発を阻害することにならう、民間の新技术を促進するような体制を考えるべきである。
- ・本研究開発課題のどこが建設生産性の向上につながるのかについて、明確にして実施すべきである。
- ・橋梁などの労働集約を解消するための対応をどう考えているかについて、明確にして実施すべきである。
- ・施工が中心に見えるが、既設構造物の維持管理への対応をどう進めるのか、明確にして実施すべきである。
- ・災害対応についても検討に含めて実施すべきである。

「新しい木質材料を活用した混構造建築物の設計・施工技術の開発」

- ・地球温暖化防止対策の一環として建築分野で木材の利活用を考えることは重要。
- ・木材利用を地方活性化の事業の一つとして位置づけると良いのではないかと。

- ・ 技術的には可能だと思うが、普及には行政的な主導が必要である。
- ・ 個別研究については、大学との連携が重要であると思われ、その点では非常に良いと思うが、大学の研究に任せた場合に何か問題があるのかも、説明があるとよい。
- ・ 接合部の問題、CLT 自体の耐久性の問題について、しっかりと検討して欲しい。
- ・ 混構造の構造性能については、各種構造の取り合い部分で検証が必要となるため、国総研、建研の今までの蓄積を活用して研究してほしい。
- ・ 社会は「木造の中層建築」または「木造の耐火性」に十分な理解があるか疑問のため、社会への説明性と社会のニーズ、許容度合いについてもプロジェクト内で確認すべきである。
- ・ RC から木に変えることにより、全体の自重が低減化されること自体も評価して良いのではないか。
- ・ 想定するプロトタイプを最初にしっかり設計し、世の中のニーズと同定した上で、開発が進んでしまう前に検討項目を整理されるとよい。

以上